



貴重な寺宝が多数ある當麻寺

まで色彩鮮やかに保存されています。

23 五条別れ道標（京都市史跡指定）

北面に「左三條通」東面に「左  
八五条橋」ひがしにし六條大橋  
くまきよ水道」西面に「願主  
道範建立」と彫られており、江戸  
時代中期の一七〇七年、沢村道範に  
よつて建立されています。この辻を  
南下し、京都薬科大学南キャンパス



短いですがモミジもきれいな素敵なお散策道です。



人通りの多かった街道と街道を結ぶ重要なポイントです。

2 隣ヶ岡みどりの径

二日、市営地下鉄東西線の開通に伴い、京阪電車京津線の廃線跡を利用して造られた公園です。三条通りの踏切のあった場所から御陵駅



昔は天智天皇陵のことを  
鏡山と呼んでいました。

卷之三

陵」が造営されました。中臣(藤原)鎌足とともに、蘇我氏を滅ぼしたなかのおおえのおおじ 中大兄皇子(後の天智天皇)は、近江(大津市)に都を移しました。近江に都を移したのは、当山科に領地を持つていた中臣鎌足の影

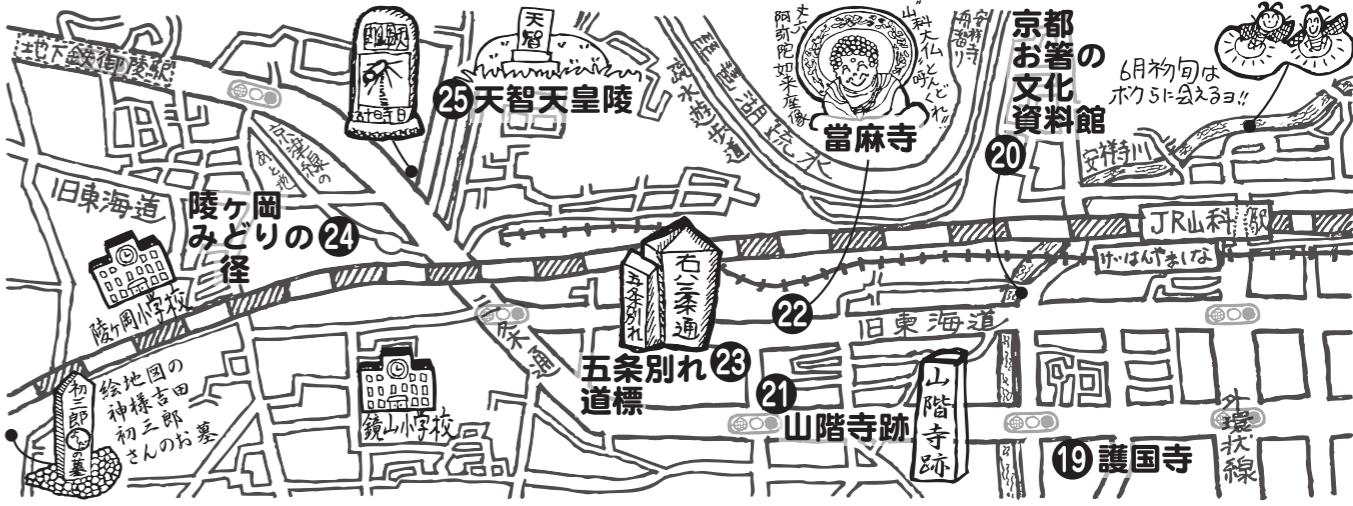


キャラクターになった  
山科なす

二十数年かけて努力を重ね、形や色艶が良く美味しい山芋なすの栽培に成功しました。



## 山科なす



19

現在竹鼻地域の三条通南側にある護国寺は、江戸時代の僧である日勇にちゆうが一六四三年に醍醐街道と京津国道の交わるあたりの竹やぶ四千坪を切り開いて創建しました。洛中から洛外へ通じる街道沿いに建てられた日蓮宗の学問所「京都六壇林ろくだんりん」の一つで、「山科壇林」と呼ばれていました。「談義所」「談所」「学校」とも呼ばれ、地元では「だんじょ」だんぎょとして親しまれていました。



現在は近代的建築になっている護国寺。



いろんなお箸を展示しています。

は語られています。近江宮との立地関係や、藤原氏の勢力圏であること、交通の利便性など、好条件が揃う場所でした。また、石水槽の龍口から水を伝わせて時間を計る漏刻を日本で初めて作った天智天皇の功績を讃え、入口に日時計が置かれています。

学できます。館長が「三度の食事への感謝だけでなく一番身近な存在であるお箸にも一緒に感謝のお祈りを」との思いで開館しました。近くには「マイ箸」を持ち歩くエコ派の方も多いと思いますが、一度見学すればお気に入りのお箸をさらに大事に使いたくなるのではないかでしょうか



山階寺跡の碑は五条別れ交差点の北東角にあります。

御陵にある當麻寺は、鎌倉時代の二三四四年、西山（証空）上人が創建したとされています。本尊の「丈六阿彌陀如來坐像」は平安時代後期から鎌倉時代の作とされ、「山科大仏」と呼ばれ京都府の文化財に指定されています。「触つてもよい仏様」として膝に多くの人が触つた跡があり、光沢を帶びています。また改修時に、仏像の背後に仏の形をした扉が確認され、仏像下には台車がついていて、仏像ごと動かせるようになっていたようです。また當麻曼荼羅は、江戸時代初期に纖細なタッチで描かれたもので、今日